

どのように、私（事務局）は
「声なき声」を聞いてきたか

東京都自立支援協議会委員

狛江市福祉相談課 相談支援係 九鬼 統一郎

当事者の声を協議会から発信するために、
狛江市が取り組んできたことを2つの点からお話しします。

- ① 当事者が協議会委員として参加するとき、
どんなことをしているか。
- ② 委員でない当事者の声をカタチにするため、
どんなことをしているか。

狛江市地域自立支援協議会の構成について

- 狛江市地域自立支援協議会は平成22年7月に発足しました。
- 会議体の構成は全体会，定例会，事務局会議，そして4つの専門部会から構成されていました。
- 4つの専門部会のうちの1つが当事者を中心に構成されたペガサス（当事者）部会でした。
- ペガサス部会の発足当時の特徴は，中心となる障がい種別が知的障がいであったことです。部会で取り組むべきことを当事者同士で話し合った結果，3つのグループに分かれました。（支援者は必要と言われたときだけお手伝いをすることを心掛けてきました）

協議会の大きな会議に参加している当事者委員

- 第1期の当事者委員は1名（身体障がい）でした。
 - 発足当時は右も左も分かりませんでした。
- **第2期の当事者委員は3名（3障がい）でした。**
 - **（1）当事者の意見を聞くことがとても大切とみんなが認識をしたこと**
（2）ペガサス部会の活性化と共に参加してみたいという気持ちが出てきたこと
（協議会，事務局，当事者の意識の変化）
- 第3期の当事者委員は1名（精神障がい）です。
 - 2年間頑張っていて疲れてしまったという意見が聞かれ，今期は1名となりました。

私が事務局として心掛けていたこと

当事者委員の声だけが市内当事者全体の声ではない

- 委員に負担をかけてしまわないように
小さな声にも耳を傾けるように

もしも私が彼（彼女）の立場だったらどう思うか

- 発言に対して否定をしない（部会でもこのルールは徹底）
当事者同士もお互いの障がい理解をするように
なるべく複数の選択肢を用意して、選んでもらうように

専門用語を使いすぎない

- 常に心掛けていることですが、知的障がいの方が中心の部会があるため、一番心掛けました

私が実践していたこと

■ 会議前の事前準備

- 事前資料の分からない部分や会議で発言する部分の確認（窓口でマンツーマンで対応）
- 関係機関との連絡調整（社会福祉協議会の当事者支援を行っている担当との打合せ）
- 全体会で報告する部会資料の確認

■ 会議の直前・直後

- ちょっとした声掛け（話す場合は緊張していることが多い）
終了後のアフターフォロー（意見がうまく言えなかったり、会議中の表情を見て声掛け）
会議中に分からなかった部分を改めて説明

■ 会議中の支援

- 会議中に分からないことがあったときの支援（横に地区担当CWが座って適宜対応する）
- 話しやすい雰囲気を作る（協議会委員皆で当事者委員が話しやすい雰囲気や風土を作る）

課題と思っていること

- **時間の確保をどうしていくか。**

→ 一度に全てを説明すると当事者も疲れてしまうので、多いときは複数回説明の時間を取る。資料作成や会議時間が過度にならないよう、調整が必要。

- **資料作成のマニュアル化ができていない。**

→ 本人に合わせた支援をしていくため、一律のマニュアルは馴染まない。ルビ振りだけでなく、分かりやすい言葉を使った資料作成や、文字のフォントや大きさなどについて、大まかなルールの設定ができていない。

- **担当が変わったときに同じようにすることが可能か。**

→ CWの部門が協議会事務を担当しているからこそ、本人と知っている仲だからできている。担当が変わったりした場合に、関係性を1から構築しなくてはならず、継続していくことができるだろうか、と担当が長くなっていることも課題と認識している。

声なき声をカタチにしていくために

- ◆ 今は生活支援の課題を考える部会（通称：相談支援部会）でその声をカタチにしていく基礎を作っています。（**事例検討から出る課題は、地域課題につながる**）
- ◆ 市内の相談支援事業所と行政が月2回集まって、関わっている事例から個別課題を地域課題に転換する作業を行っています。（**発想の転換につながる。引いては相談支援専門員のレベルアップにもつながる**）
- ◆ その地域課題を元に、課題解決をするため、地域の社会資源の活用アイデアを募り、地域づくり計画を作成します。（**地域資源をもっと知ることに繋がる**）
- ◆ それを定例会に提出し、他の案も委員から出してもらいながら、取り組む事項の優先順位を決定していきます。（**各専門分野の地域資源の掘り下げにつながる**）
- ◆ 定例会でまとめた内容を全体会に挙げていき、地域の皆さんと狛江市で起こっている課題の共有と共に、どう取り組むべきか、更に委員の意見を踏まえながら、地道に地域課題の掘り起こしをしています。

声なき声をカタチにしていくために【課題】

1. 計画相談支援が入っている人でないと、地域課題が見えてきていない。
 - **アウトリーチまでできる人員体制が整っていない。**
2. アセスメントが不十分であると、課題自体の把握が難しい
 - **相談支援専門員の質の底上げが必要**
3. 個別事例から地域課題への転換をする考え方が定着していない
 - **もっと事例を積み上げて考え方を学んでいく必要がある**
4. 定例会を非公開としているため、プロセスが分かりにくい状態になっている。
 - **市域が狭いこともあり、事例から個人が特定される可能性がある**
 - **協議会に関わっている方にフィードバックできるような仕組みが必要**

最後に

当事者委員への取組みや、それ以外の方の声を拾うため、協議会事務局としての取組みをお話ししました。

本日この場に至るまで、毎日悩みながら、周りの支援者の助けも借りながら、そして当事者の方々のご意見を頂きながら、ここに居ます。

狛江市が行ってきた当事者への取組みは、いい意味で狛江市がユルイ関係にあるからできたものと思っています。

それぞれの自治体の良さを活かしながら、お互いに進めていけると良いのではないかと思います。